

⑬		③	②	①
⑮	⑭	⑥	⑤	④
⑰	⑱	⑨	⑧	⑦
⑲	⑲		⑪	⑩
⑳	㉑	⑫	⑪	⑩

①緑の芝生の上で、小枝を使ったボール遊び、楽しいな！②この箱が、周りに土が無くても木の根を支える「カミネッコン」だよ。③落ち葉の分解の様子を見学。うっすらと湯気が…触ると温かい。④気を付けながら木の剪定(せんでい)。⑤しっかり触って、感じて観察。⑥この鳥な～んだ？みんなでクイズ。⑦双眼鏡ってこう使うんだ。⑧池のマガモを静かにウォッチング。⑨「鳥は公園で、餌や、すみかの材料を集めます」。⑩公園の木の名前を彫りました。⑪みんなで記念撮影。⑫僕の樹名板かっこいい、私のはかわいいでしょ。⑬木の見分け方、名前の覚え方、落ち葉の役割を学びました。⑭公園の落ち葉をみんなで貯金。⑮「貯金箱」をしっかりとかき回して。⑯二つの「貯金箱」は、あっという間に満杯！⑰一年たって、この厚さに。おおよそ半分くらい？⑱「貯金箱」の温度は？今日は28度くらい。温かいでしょう。⑲よ～く見ると、落ち葉がこんなに細かく分解されています。⑳しっかり分解されるように、よくかき混ぜます。切り返して言うんだよ。㉑空いたスペースには、今年の落ち葉が入られます。

①、②、④「パンダ公園フェスティバル」(平成18年6月3日：藻岩下公園)、③、⑤、⑬「平成18年度第1回公園まなびのヒント講座」(平成18年9月22日：エドウィン・ダン記念公園)、⑥～⑫「平成18年度第2回公園まなびのヒント講座」(平成18年9月23日：エドウィン・ダン記念公園)、⑭～⑯「平成17年度第2回公園まなびのヒント講座」(平成17年11月12日：エドウィン・ダン記念公園)、⑰～㉑「落ち葉の切り返し作業」(平成18年9月30日：エドウィン・ダン記念公園)

「公園の落ち葉」の腐葉土を差し上げます！

エドウィン・ダン記念公園の落ち葉から作った腐葉土(1袋20リットル入り)を1人2袋まで差し上げます。畑で利用する場合はすぐに使えますが、花壇や鉢植えで利用の場合、段ボール箱などで半年間ほど熟成させてからお使いください。申し込み方法などは、本誌南区版6ページをご覧ください。



みんなでお出かけませんか。

落ち葉のリサイクルは、身近な自然を学ぶ第一歩です。分解された葉の感触を手で確かめ、小さな虫や微生物の働きに、驚いたり感心したり。四季を通じて遊べる、学べるそんな公園に、

落ち葉は、平成十四年まで全てごみとして集められ、清掃工場で焼却されていきました。落ち葉を集めて運び焼却するには、お金が掛かります。そこで、お金を掛けずに落ち葉を自然に戻す方法をみんなで考え、落ち葉を公園内の「貯金箱」にためて堆肥にし、リサイクルすることにしました。平成十七年の秋に貯金した落ち葉は、一年がたち、もうすぐ立派な堆肥になって、肥料として土に戻ります。

落ち葉のリサイクルは、身近な自然を学ぶ第一歩です。分解された葉の感触を手で確かめ、小さな虫や微生物の働きに、驚いたり感心したり。四季を通じて遊べる、学べるそんな公園に、

を調べたり、手で触れてその状態を観察したりしました。また、みんなで園内にある木の樹名板を制作。これから順次取り付けられます。

(財)日本野鳥の会会員の萩野裕子さんは、身近な鳥から渡り鳥までさまざまな鳥の名前や特徴などを教えてくれる野鳥の先生。参加者は、双眼鏡の使い方や、すぐに園内の池にいるマガモを観察。雄と雌の見分け方や、焦点をピタリと合わせる極意を伝授されました。参加者は、その分かりやすさに感心しながら、鳥が木の実や付いている虫を食べ、ふんをすることで、その栄養分により新しい木が芽生えるという「木」と「虫」と「鳥」とが密接に連鎖する関係について学びました。

